



創立130周年を迎える2015年1月に新校舎落成予定



中1グローバル研修



エンパワーメント・プログラムは基礎編と発展編の2種類。栗原校長も見学。

「昨日まで、英語漬けなんてやだなーっておっくうそうでしたけど(笑)、いざ始めると、とても楽しそう。最後のスピーチも、英語を習って2カ月とは思えないほど素晴らしいものでした。中1の保護者。今年度スタートしたグローバル研修の見学に来て感激したという。英語の入り口をしっかりと作りましたので、あえて入学してすぐの5月末に実施しました。英語を少なくとも嫌いにさせない。楽しいと思っただけ強いていくうちに、壁にぶつかる。そこで、がんばって乗り越えようと楽しくなる。そのサイクルを作れたかったです」と話す栗原卯田子校長。10名のグループにネイティブの先生が1名つき、クイズやゲームを通じて英語と親しむ。プログラム終了後、生徒からは「最終日のスピーチが一番楽しかったです」と、異口同音の感想が聞こえてきた。「自分なりに自分のことをアピールできてよかったです」と決めた顔で語る生徒もいた。研修後、どのクラスも授業で積極的に発言するようになった。9月の文化祭では、英語で寸劇を発表して、アナと雪の女王をボーイソプラノで元氣よく歌った。学校生活がとても楽しそうだった。

次代のリーダーを育てる

昨年度、都立小石川中等教育学校より同校に着任した栗原校長は「私立には、公立ではまねできない伝統がありますね。本校にはほれほれするようなリーダー教育の伝統があります。1925年から続く臨海学校もその一つ。中1の面倒を見るのは、補助員として帯同する高2の泳力と指導力の評価で、各クラブから選ばれた成城の精鋭です。彼らは、準備や後片付けから、中1の指導まで、プライドをもってミッションを全うしてくれます。その姿を見た中1の生徒たちが『先輩のようにになりたい』と憧れ、4年後の補助員が育つのです。こうしたリーダー教育の伝統をベースにして、新たに、次代のプログラムを開発しています」と語る。それが、中3から高2の希望者対象としたエンパワーメント・プログラムだ。カリフォルニア大学からグローバルマインドの高い学生を選抜して招き、大学生1名と成城生5名のグループで、議論・企画・発表をすべて英語で行う。「エンパワーメント」とは「自分の人生を自分で選択し、判断し、決断すること」を意味する。まさに、校章「三

伝統と創造と

グローバル社会で活躍するリーダーを目指して

1885年、文武講習館として創立し、翌年、『詩経』の「哲夫成城」(哲夫ハ城ヲ成ス)をとって校名を改める。校章は知・仁・勇を象徴する三光星。「文武両道の実践を通して、知・仁・勇を備えたスケールの大きいリーダーを育てたいと思っています。本校の至るところに、挑戦の場があるので、勉強も部活も行事もがんばるタフな男子を育てます」と栗原卯田子校長。来年1月には創立130周年を迎え、新校舎が完成する。そして、グローバル時代のリーダー育成に向けて、さらなる進化を続けている。

挑戦と失敗ができる環境

「成城は、挑戦と失敗をさせてくれる懐の深さがありますね。だから、自然と考える習慣が身に付いていきます」と文化祭準備に奔走する高2生。すぐくオープンな学校で、先生との距離がとても近いです。新校舎になっても職員室の入りやすさは変わらなずです」と質問に来た高3生。「毎日8時に校門に立っています。肩を組んで登校する生徒たち、大きな声であいさつする生徒たち。学校が好きでたまらない様子が伝わってきます。つくづく良い学校だなと思います」と、栗原校長は楽しそうに話してくれた。